



ぜひご家庭でもお読みください

夢を力に変える人 No.6

生きにくさを抱え込まないで... “しんどい高校生”にエールを

認定NPO法人 DXP

- とっても身近な社会貢献! 書き損じハガキ寄付プログラム
- ソーシャル・ピープル・インタビュー
女優 東 ちづるさん
- グループ従業員のボランティア活動レポート



ソーシャルグッズ 読者プレゼント 詳しくは裏表紙へ



こちら事務局

応援したい市民団体に一票を!
「ゆめ・まち基金 市民団体助成プログラム」
選考アンケートにぜひご回答ください(1月下旬送付)

皆さまの募金を積み立て、会社からの同額寄付と合わせて阪急阪神沿線の市民団体を助成する「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金 市民団体助成プログラム」。7回目となる今年度の公募には、84団体からの申請をいただきました。ゆめ・まち基金にご参加の方には、1月下旬に選考アンケートをお送りします。アンケートで高評価の市民団体は、本選考で加点しますので、ぜひご回答ください!

なお、本選考における従業員代表は次の方々です。

阪急電鉄 都市交通事業本部 都市交通計画部/今村純子さん
阪神電気鉄道 都市交通事業本部 運輸部/藤原豊宏さん
阪急交通社 CSR推進本部 CSR・コンプライアンス推進部/藤田博彰さん

「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」は随時、
皆さまのご参加お待ちしております!

※詳しくは、ページ下部のホームページの「従業員向けページ」をご覧ください。



12月4日(金)	事務局による書類選考
1月下旬	基金参加者アンケート送付
2月4日(木)	基金参加者アンケート締切
2月17日(水)・18日(木)	会社・従業員代表による本選考
3月末	助成実施

阪神淡路大震災の悲劇を風化させないために
ボランティア募集!
地すべり跡地の緑化活動に参加しませんか?

参加者募集!

ゆめ・まち基金の助成先のボランティアグループ「ゆりの会」では、近隣住民34名が犠牲となった仁川の地すべり跡地で、シバザクラをはじめとする四季の花々等を育てる緑化活動を行っています。犠牲者への追悼の意と、震災の教訓を風化させずに次世代に伝えたいという思いで続けられているこの活動。柔らかな春の陽射しの中、植栽ボランティアとして汗を流してみませんか? 今回はボランティアに加え、同地にある兵庫県立地すべり資料館の見学や迫力ある和太鼓の演奏会など魅力満載! ボランティア経験豊富な方はもちろん、ボランティア初心者の方も、大歓迎です! ぜひ、ご参加ください。



鎮魂の想いを胸に活動するボランティアの方々

日 時: 4月16日(土) 10:00~13:00(9:45受付開始)
※雨天の場合は、4/17(日)に延期
場 所: 団体活動地(兵庫県西宮市仁川百合野町10-1付近)
※阪急仁川駅より徒歩約20分
内 容: ①花壇の手入れボランティア ②地すべり資料館の見学
③吹奏楽と和太鼓の鑑賞 ほか
参加費: 無料、シバザクラの鉢苗のお土産付き(予定)
定 員: 20名(ご家族同伴可・小学生以下不可)※一般の方と合同で開催
主 催: ボランティアグループ「ゆりの会」(ゆめ・まち基金 第6回助成先)

件名を「4/16植栽ボランティア申込み」とし、本文に「所属会社・部署名」、「参加者名(フリガナ)」、「電話番号」を明記のうえ、2月24日(水)までに、メールまたはFAXで下記へお申込みください(先着順)。お問合せ・お申込みは以下のゆめ・まちプロジェクト事務局へ。

阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト事務局

(阪急阪神ホールディングス 人事総務室 総務部 社会貢献担当)
shakai@hankyu-hanshin.co.jp
TEL: 06-6373-5086 FAX: 06-6373-5174
URL: <http://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/>
※グループ従業員向けページの「ユーザー名」、「パスワード」は8984です。



ソーシャルグッズ 読者プレゼント

5名様
に
プレゼント



障がい者の手づくり レーザー製カップホルダー



ショップではレーザー商品の他にも菓子や陶芸、紙製品も販売しています。

商品の購入を通じて 障がい者の自立を支援する

障がいがある方の「もっと働きたい」「たくさんの方に商品を手にとって欲しい」...そんな願いをかなえるために生まれたショップ「神戸ふれあい工房」が販売するカップホルダー。素材は温かみのあるレーザーで、使うほどに手に馴染み風合いを増していきます。一つひとつ丁寧に作られた商品には、つくり手の社会参加への強い思いが込められています。

問合せ/神戸ふれあい工房
☎078-334-2011
価格/1,404円(税込)
URL:<http://kobe-fureai.jp/>
※手づくりで一点一点風合いが異なるため色変更になる場合があります。

ご希望の方は下記事務局までメールでお申込みください。メール件名を「カップホルダー希望」とし、本文に「氏名」「所属会社・部署名」「送付先の住所・電話番号」「ゆめ・まち・みらいの感想」を明記してください。

応募締切:2016年1月31日(日)

編集後記

親になって思うことも違を取り巻く社会の閉塞感。窮屈な時代に、多感な高校生が自らの人生を切り開くことを支える、DXPを心から応援します。特集をご覧ください。(新美佳代)



昨年開催した「ランチタイムに社会貢献」はいかがでしたか?どれも気軽に参加できるプログラムだったと思います。皆様からの募金と温かい気持ちをしっかりと寄付先にお渡しします!!(中野英里佳)



「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」とは「未来にわたり住みたいまち」づくりを目指し、「環境づくり」と「人づくり」の分野で、グループ各社の社会貢献推進、市民団体の支援、従業員のボランティア活動の応援の3つに取り組み当社グループの社会貢献活動です。

阪急阪神 ゆめ・まち

検索

夢を力に 変える人 No.6



認定NPO法人 DXP(ディーピー)

生きにくさを抱え込まないで… “しんどい高校生”にエールを

若者が希望を持てる社会をつくることを目標に、2010年に設立されたDXPは、定時制・通信制高校を中心に高校生のキャリア支援プログラムを展開。その斬新な取組みと確かな成果で、今、注目されている団体だ。

現 在、DXPが高校生に提供するプログラムは大きく分けて2段階になっている。ファーストステップは、冒頭で紹

つ病や対人恐怖症に苦しみました。その挫折体験がDXPを立ち上げる原動力となったのかもしれない。「苦しい時期から回復した今井さんは、アフリカへボランティアに出かけ、そこで衝撃を受ける。「貧しい国だけれど、ことも達は明るく、生きるエネルギーに溢れている。それに比べて日本はまずいな」と。帰国した今井さんは日本のごも達のために何かしたいと動き始めた。そして、若者の現状を調べるうち、ある事実が辿り着く。「日本の定時制や通信制の高校に通う2人に1人が、進学も就職も決まらないまま無職状態で卒業していたんです。さらに調べると、定時制や通信制高校の生徒の多くは、いじめや不登校、複雑な家庭環境など、苦しい経験を背負っていることがわかりました。苦境が続く中で、いつしか自己肯定感が弱まり、傷つくことを必要以上に怖れ、殻に閉じこもってしまうんですね。自分なんて価値がない、誰にも愛されない…自らのことを10円くらいの価値しかない、なんて言う子もいました。彼らに必要なのは、誰かに肯定され、一歩踏み出す勇気を持つことです」。かつての自分のように孤立し、社会との関わりを持ってない若者に、そこから這い上がる力をつけてほしい…そうして2010年、DXPが設立された。



7



5



6

⑤今井紀明さん。代表として、企業の寄付を依頼するために経営者会合での講演もこなす。「今は18社に支援いただいています」⑥「クレッシェンド」の進行は、生徒達の反応や場の空気によって臨機応変にアレンジしていく。「授業はなまものですから、相手が変わると中身も変わります」と今井さん。(写真提供:Yusuke Kida)⑧スタッフの川上さん。現在、クレッシェンドの運営は彼が中心となっている⑨セカンドステップの「部活動」。コンポーザーと生徒達が継続的につながる機会でもある。⑩「できた!」と思える成功体験を積み重ねる場として、インターシップの機会も設けている。



4



1

①②「クレッシェンド」は高校で正式に単位認定されている。コンポーザーの年齢は19歳から39歳まで。高校生と年齢が近いほど、共感を得やすいからだという。現在の登録者は約110名。コンポーザーが自分の経験を語るやり方は、人それぞれ。ある人はパソコンを使い、ある人はオリジナルの紙芝居を使い、ある人はスピーチだけで伝える。③「クレッシェンド」の最後に、生徒達が書く学びシート。誰もが熱心にペンを走らせる。④広報の入谷佐知さん。「試行錯誤を繰り返して、プログラムの形がようやく固まってきたところです。それでも毎回の反省や課題を、次回に生かす試みを続けています」



3



2



10



9



8

介した「クレッシェンド」。コンポーザーとの交流を通じて多様な価値観を知る中で、どうせできないという否定的な思考を少しずつ変え、自分のやりたいことを考えていく時間だ。そうして培った、心の体力をベースに、セカンドステップとして用意されているのが学外の活動へのチャレンジ。「部活動」と呼ぶプログラムでは写真、登山、フットサルなど仲間と出会い、つながり、一緒に好きなことに挑戦する。その他にはプログラミング入門の講座や、地方の旅館でのインターシップなどが、これらは、やりたいを、できるに変えるための支援だ。小さな成功体験は、より大きな成功体験の土台となる。最初は誰とも話せなかつた生徒が、プログラムを経て劇的に変わっていく姿に、いつも今井さんは驚かされるとか。「自分には10円の価値しかないと思ってたけど、100円くらいはあるかな」。ある生徒の一言は、小さいけれど大切な変化が確かにあったことを物語っている。

と ある高校の教室で、一風変わった授業が始まった。教壇にはコンポーザーと呼ばれる進行役の大人が3名。大学生、飲食店の店長、プログラマーと、職業も年齢もさまざまだ。「今日のテーマは、失敗なんて当たり前!です」という挨拶を皮切りにコンポーザー達が語り始めたのは、過去に自分が経験した悩みや挫折。学生時代にいじめを受けたこと、職場の人間関係がうまくいかず悩んだこと、隠れた障がいの影響でコミュニケーションが苦痛だったこと…内容は三人三様だ。最初はざわついていた生徒達が、いつの間にか静かになっている。表情も真剣そのものだ。

これは認定NPO法人「DXP」が、高校生に向けて行うキャリア教育プログラム「クレッシェンド」の一幕。一般から募集し、研修を経たコンポーザーが数回にわたり授業を実施する。自らの失敗体験をシェアしたり、仕事や進路について一緒に考える中で、生徒達の「一歩前に進もう」という気持ちをゆつくり支えていくものだ。DXPはこのプログラムを主に定時制・通信制の高校で実施しており、2014年度には8校、約430名の生徒達が体験した。

D x.p.(DreamX Possibility)の略。その名の通り、すべての若者の夢と可能性を広げたいとの思いを込めた。代表は今井紀明さん。実は今井さん、2004年にイラクで人質になった3名のうちの1人。「事件後、世間のパッシングを受けてう

認定NPO法人 DXP(ディーピー)

「寄付をする」「コンポーザーになる」のいずれかで、活動を支援することができます。詳細はウェブサイトの「参加方法」ページをご覧ください。

〒540-0032
大阪市中央区天満橋京町1-27
ファラン天満橋33号室
TEL: 06-7222-3001

E-mail: info@dreampossibility.com
URL: http://www.dreampossibility.com/



とっても身近な社会貢献! / 書き損じハガキ寄付プログラム

回収期間：2015年12月24日(木)～
2016年1月29日(金)

書き損じて捨てるしかないハガキ、たくさん印刷して余った年賀状…あなたの家に、ありませんか？
職場に設置された回収ボックスに入れるだけで社会貢献になるんです。とっても身近なボランティアですよ。そのハガキ、捨ててしまわないで、ぜひ!

寄付先:
大阪YWCA 点字子ども図書室

目の見えない子ども達に、本を読む楽しみを…そんな思いで、児童書の点訳と全国無料貸し出しを行う団体です。1981年から活動を開始し、子ども向けの良書を選んで点訳・製本を続けています。

※ゆめ・まち基金 第6回助成先。ゆめ・まち・みらい vol.27で詳しく活動を紹介しています。



個人情報
必ず塗りつぶして
ください

回収場所

- ① 阪急電鉄各施設 (本社・各操車・各管区長所在駅など)
 - ② 阪神電気鉄道各施設 (本社・各列車所・各駅長室など)
 - ③ 阪急交通社各拠点 (新橋・青葉台・大阪・名古屋・福岡事務所)
 - ④ 阪急阪神エクスプレス各事務所
 - ⑤ 阪急阪神ホテルズ 11ホテル (第一ホテル東京、大阪新阪急ホテルなど)
- 他グループ各社約200カ所

※上記以外の回収場所など、詳しくは下記HPをご確認ください。

点字を知ろう! 点字で名刺をつくろう! 特別企画「プチプチ点訳体験」

ご自分の名前を「点字」で打って、点字付きの名刺をつくってみませんか？
ランチタイムのたった5分で、点字付き名刺ができあがり!
点字のことや回収ハガキの寄付先「大阪YWCA 点字子ども図書室」の活動を知るきっかけにしてください。



体験いただいた方には
キッズニア甲子園入場券や、
フェアトレード商品等が当たる
ガラポン抽選会も

日程	時間	会場
1/26(火)	11:30～13:30	阪急電鉄本社ビル 1階エコルテホール
1/28(木)		阪神電気鉄道本社ビル 10階ホール

※当日は名刺・社員証などご所属とお名前がわかるものをお持ちください。

ハガキ回収のご協力や「プチプチ点訳体験」参加で、社会貢献ポイント 5ポイント 進呈!

申請書は「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」HP(従業員ページ)の「Topics」欄よりダウンロードできます。
<https://www.hankyu-hanshin.co.jp/yume-machi/group.html> (ユーザー名・パスワードは8984)

※2月末までに申請してください。 ※期間中、申請はそれぞれ1回限り有効です。



めざすは「まぜこぜの社会」 違いをアドバンテージにしよう

ボランティア活動を23年にわたり続けている東ちづるさん。2012年「一般社団法人Get in touch」を立ち上げ、参加型の新しい社会活動に取り組んでいます。活動に込めた思いとは？

東日本大震災の避難所は日本の縮図

23年前に始めたボランティアですが、続けるほどに感じるようになったことがあります。支援する側とされる側があると、結局は弱い立場の人をつくり続けてしまうのではないかと。そんな頃に、東日本大震災が発生。自閉症やあらゆる



2015年4月2日、「世界自閉症啓発デー」に行われたGet in touchの「MAZEKOZE LIVE(まぜこぜライブ)」にて。同じ青い空の下で...をテーマに、様々なイベントで盛り上がりました。

マイノリティの人が、避難所でつらい状況に陥ったことを知りました。日頃ほとんど接することのない人達と同じ環境に身を置いたことで、不自由や不便が出てきたんですね。周りに迷惑がかかることを気にして避難所から自主退去したご家族もいるそうです。

世の中全体が不安に陥っている緊急時に、マイノリティはよりいっそう追いつめられてしまう...それが現実でした。避難所は日本の縮図です。普段から街でみんなと一緒に暮らしていたら、こういう問題は起こらなかったでしょう。

多様性のある社会へ：プロジェクトの創始

誰も排除されない、まぜこぜの社会をつくりたい。そんな思いで「Get in touch」の活動をスタートさせました。めざすは、違

いをハンディではなくアドバンテージにできる社会。言葉で伝えるのではなく、一人ひとりに感じとってもらおうと、アート展やコンサートなどを通じて、まぜこぜの居心地の良さをPRしています。4月2日は国連が定めた世界自閉症啓発デーで、世界中のランドマークがブルーにライトアップされます。私達はこの日、原宿、表参道、青山の街をブルーに染めるイベントを開催しました。

SOSを発信すれば社会が変わっていく

活動を続ける中で、私自身もSOSを発信しやすくなり、生きることがラクになってきました。それに、自分がSOSを発信すると、人のSOSにも気付くようになります。誰だって人間関係や仕事、体のことなど何かしら悩みはあります。生きづらさを感じたことのない人などいないでしょう。みんながSOSを伝え合って、助け合う、お互いさまの世の中がいい。誰もが自分らしく暮らしたいのですから。

Profile 1960年、広島県生まれ。女優、タレントとして活躍する傍ら、骨髄バンク、障がい者アート、ドイツ平和村などのボランティアを続けている。アートや音楽などを通じて「まぜこぜの社会」をめざす「Get in touch」の代表としても活動中。(http://getintouch.or.jp/) 著書に「(私)はなぜカウンセリングを受けたのか〜「いい人、やめた!」母と娘の挑戦」など。

グループ従業員のボランティア活動レポート

2015 vol.4

従業員・OBの皆さまの参加するボランティア団体に、阪急阪神ホールディングスが3万円を支援する「ゆめ・まち ええこと応援団」。昨年度の支援先と、参加従業員・OBの方のコメントをご紹介します。

フォルテFC/豊中市

サッカーゴール購入で、選手の成長にも対応! サッカーを通し、礼儀と協調性の両面から子ども達の成長をサポートします。



亀岡ウイングス少年野球倶楽部/亀岡市

小中学生あわせて30名が元気に活動中!

大会の遠征費に、支援金が役立ちました。小さな団体にとって、大変大きな支援金です。

阪急バス 倉内 光一さん



阪急電鉄 根本 孝さん

阪急電鉄OB 山下 豊さん

グループN-BUN(エヌブン)/大阪市西区 視覚障がい者および身体障がい者のため、月刊誌や児童書などの音訳図書を製作するボランティア団体です。



本の楽しさを、気持ちのいい音声で伝えたい。

N-BUNはNHKの朗読講座の受講メンバーで構成されている100名強の団体です。車掌をしていた頃にアナウンス力をつけようと音訳ボランティアに参加して以来、読書の楽しさを多くの人に音声で伝える喜びを感じています。音量やアクセントのチェックなどを徹底して、より聞こえやすく気持ちのいい音声の音訳図書を作ることがモットー。最近では児童図書や漫画の音訳にも挑戦して活動の幅を広げています。画像のイメージを音声だけで表すので難しくもありますが、やりがいもひとしおです!



NPO法人 Juvenile Education Society (児童育成会)/神戸市

支援金で研修キャンプを開催、充実したイベントに

ボランティア活動を通して地域社会を担う次のリーダーを育成する活動を展開。



別所ファイターズ/三木市

継続的な支援金に、保護者からも感謝の言葉が 協調性や規律を重んじる軟式野球チーム。休日にはいつも練習に励んでいます。

阪急阪神電気システム 鳴瀬 裕信さん

阪急電鉄 田中 成明さん



日本ボーイスカウト 西宮第10団/西宮市

支援金でテントを購入。大変ありがたいです! 目的はより良き社会人の育成。仲間と共に自然の中で活動しながら、多くを身につけます。

ハンシン建設 宮本 泰彦さん

市民団体の活動参加のススメ

File 14 自然の中へレッツゴー! 「わくわく探検隊2016冬プログラム」参加者&スタッフ募集!!

高槻駅から車で15分。自然に囲まれたフィールドで、子ども達の農業体験や登山などの楽しいプログラムを展開しています! プログラム運営をサポートするボランティアスタッフも募集中です。

- 日時:** ①1月31日(日) わくわく★冬野菜鍋道場(冬野菜の収穫)
②2月21日(日) わくわくもちつき大会
③3月13日(日) ポンポン山探検(登山)
※イベント日程・内容は、当日の天候等により、予告なしに変更になる場合があります。
- 場所:** 高槻市内
対象: 小学3~6年生
参加費: 5,000円(①~③の全プログラム体験費、保険料等)
※①~③のいずれかのみ参加は、2,000円。参加希望の日程をメール又はFAXでお知らせください。



お問合せ先: NPO法人 ノート TEL&FAX: 072-672-5173 Mail: info@npo-note.com URL: http://npo-note.com